


読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 小塚 昌弘
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円

No.624

- ★「2020 若い人に贈る読書のすすめ」書目決定(2頁)
- ★「第52回 全国優良読書グループ表彰」(3頁)

会員の購読料は
会費の中に含まれる



目標13のアイコン

読書とSDGs

「若い人に贈る読書のすすめ」によせて

株式会社さくら書房
代表取締役社長

浦城寿一

史上最大級の台風がふた月連続と、いよいよ身近にせまってきたかと思えます。「異常気象」がこれからますます増えていくと言われるようになってから、かなりの時間が経ちますが、ついに実害をもつて、私たちの生活をおびやかしはじめました。

異常気象の原因である地球温暖化を防止しなければならぬと、こちらももずつと言われつづけていますが、真正面からの取り組みがなされているのかどうか、疑問に感じています。いまだに「自国の経済が優先」「異常気象は地球温暖化のせいではない」という説がある。「学校をさぼつてはいけない」など、現実から目をそむけたような、またはポイントのずれた話題ばかり

が目についてなりません。むやみに危機感をあおり、「アクションを起こしてください」と訴えるつもりはありません。冷静に、現実を見つめ、知識を身につけ、自分で感じ、いまなすべきことを考え、行動する。このことを若いみなさんに期待しています。そのため、本を読んで、いろいろな考えや知識にふれることは役に立ちます。SDGsへの取り組みの点からも、同じことが言えます。2015年9月、国際連合に150を超える国のリーダーが集まり、世界が抱える問題について17の目標をさだめ、2030年までに達成することを約束しました。それが「SDGs(エス・ディー・ジー・持続可能な開発目標)」

です。それぞれの目標や、背景、取り組みなどについては、当社が出版した入門書『知っていますか? SDGs』などを参考にしてください。ここではSDGsの仕組みのひとつに注目します。SDGsの17の目標はたがいにつながりあっています。ですから、ある目標の達成を考えるときは、その目標だけではなく、いくつかの視点から広く問題をとらえることが必要になります。SDGsは、その視点として「経済」「社会(人)」「環境」の3つをあげています。たとえば、目標2「飢餓をなくそう」は、すべての人びとに栄養のある食料が十分に行きわたるようにするという「社会(人)」に関する目標です。取り組み策では、最初に農産物の生産量を増やすとしていますが、加えて、生態系を守るという「環境」や、農家の人の収入を増やすにはどうしたらいいかという「経済」に関する取り組みについてもさだめています。飢餓をなくすために、食料のことを考えるのは当然ですが、それだけではべつの問題を引き起こし、結局は続かない、持続可能ではないということ。気候変動も含め、あらゆる問題を考えるとき、このように、いくつかの視点を持つことは重要です。自分にとつて都合のいい意見や、ひとつの側面しか考慮していない意見に飛びつくのではなく、いま起きていることを冷静に観察し、影響する全体のことも調べて、他人の意見を知り、自分の感性をみがいてほしいと思います。繰り返さえます。そのため、本を読んで、いろいろな考えや知識にふれてください。きつとあなたの助けになります。

2020 『若い人に贈る読書のすすめ』実施

10月16日(水)に開催された公益社団法人 読書推進運動協議会・事業委員会で、2020『若い人に贈る読書のすすめ』推薦図書24点が選定されました。

今年も例年どおり、道府県読書推進運動協議会に「若い人にぜひ読んでもらいたい本」の推薦を依頼、40の読進協から計82点の書目の推薦をいただきました。

もつとも推薦が多かったのは、ブレイディみかこの『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』で、9つの読進協から推薦がありました。

『死ぬんじゃねーぞ!!』いじめられている君はゼッター悪くない』が5つの読進協から推薦がありました。鴻上尚史の『空気を』を読んでも従わない』、朝井リョウの『死にがいを求めて生きてい

るの』も人気を集めました。

事業委員会では、①各出版社1点 ②推薦多数書目の検討 ③そのほか特別に推薦したい書目の順で選考。最終的な確認を得て24点が決定しました。

本年度も、この推薦図書を掲載したリーフレットを21万部製作、都道府県の読進協・県立図書館を通じて各公共図書館に、日本出版取次協会の協力で取次会社を通じて全国の書店に配布を行い、有効に活用していただく予定です。

このキャンペーンの期間は、成人式から、高校生・大学生が新たな世界へと羽ばたく3月末の卒業シーズンとしています。

成人式や卒業式、読書グループ、学校での読書指導、地域の文化活動などでのご利用のために、予備を多少ご用意していますので、ご希望の方は公益社団法人 読書推進運動協議会事務局までお問い合わせください。

03-5244-5270

e-mail info@dokusyo.or.jp

著者名	書名	定価	出版社
池井戸潤	ノーサイド・ゲーム	一七六〇	ダイヤモンド社
朝井リョウ	死にがいを求めて生きていくの	一七六〇	中央公論新社
砥上裕将	線は、僕を描く	一六五〇	講談社
米澤穂信	本と鍵の季節	一五四〇	集英社
まはら三桃	空は逃げない	一五四〇	小学館
園田由紀子	空二吸ハレシ15ノココロ	一四三〇	PHPエディターズ・グループ
ブレイディみかこ	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	一四八五	新潮社
中川翔子	死ぬんじゃねーぞ!!	一三二〇	文藝春秋
樹木希林 内田也哉子	9月1日 母からのバトン	一六五〇	ポプラ社
鴻上尚史	「空気」を読んでも従わない	九〇二	岩波書店
鎌田實(著) こやまじこ(絵)	脱・呪縛	一四三〇	理論社
佐久間博文(著) P. Green(絵)	きみを変える50の名言 山中伸弥 さかなんほか	一九八〇	汐文社
桑子敏雄	何のための「教養」か	八五八	筑摩書房
鈴木謙介	未来を生きるスキル	九二四	KADOKAWA
齋藤孝	本当の「頭のよさ」ってなんだろう?	一四三〇	誠文堂新光社
佐藤優	人をつくる読書術	九六八	青春出版社
池上彰	14歳からの政治入門	一四三〇	マガジンハウス
ナイジェル・マクドナルド(著) 青木薫(訳)	ビッグ・クエスチョン 人類の難問に答えよう	一六五〇	NHK出版
弓狩匡純	平和のバトン 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶	一六五〇	くもん出版
ナナイ(著) 山口元二(解説)	ふるさとって呼んでもいいですか	一七六〇	大月書店
ヤマザキマリ	地球生まれで旅育ち	一〇〇	海竜社
渡貫淳子	南極ではたらく	一五四〇	平凡社
ダイナミクス編集部(著) 杉田七重(訳)	どん底からの甲子園	一六五〇	辰巳出版
	世界のはての少年	三〇八〇	東京創元社

「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット掲載書名一覧





2019年度・第52回 全国優良読書グループ表彰 ——道府県読進協推薦——

公益社団法人 読書推進運動協議会では、第73回「読書週間」事業として、11月3日(祝)を中心に、各道府県の読書推進運動協議会を通じて、「第52回 全国優良読書グループ(下表)」の表彰を行いました。

読書グループの結成促進と育成強化は、読書推進運動の根幹をなすものとして、公益社団法人 読書推進運動協議会は結成以來、活動の第一目標とし、道府県各読書推進運動協議会と連携して、その育成・発展に努力を重ねています。

この事業は、各読書推進運動協議会の推薦により、一地域一グループを表彰するもので、原則として5年以上の活動を続けているグループを推薦・表彰の対象としています。

現在、読書グループの活動は、読書会、実演活動、家庭・地域文庫、障がいを持つ方への読書支援、図書館サポートなど、多岐にわたつ

ています。

全国の読書グループに敬意を表し、数ある読書グループを対象にご推薦の労をとられた、各道府県読書推進運動協議会のみなさまに、深く感謝いたします。

推薦された優良読書グループには、その業績を讃え、公益社団法人 読書推進運動協議会より賞状および副賞(図書カード2万円分)を、各道府県読書推進運動協議会を通じて贈呈いたしました。

各グループの活動状況は、1月号以降、本紙上で逐次紹介していきます。

この優良読書グループ表彰は、1968年 第22回「読書週間」から実施しており、本年までの表彰グループ数は1806グループとなります。

なお、副賞の図書カード2万円分のうち1万円分は、例年同様、日本図書普及株式会社との協賛により寄贈されたものです。同社のご協力に厚くお礼申しあげます。

優良読書グループ名	所在地	代表者(世話人名)
読み聞かせサークルおはなしの木	北海道標津郡中標津町	長谷川 武子
読みかかせボランティアネットワーク「おはなしの本	青森県むつ市	小川 千恵
図書ボランティアたんぽぽの会	岩手県花巻市	高橋 則子
女川小学校おはなし会「おひさま	宮城県牡鹿郡女川町	澤田 洋美
ひだまりの会	山形県山形市	佐藤 真理子
熊町小学校図書ボランティア	福島県いわき市	夏目 陽子
図書館フレンズふじしろ	茨城県取手市	山口 理衣
おはなしと人形劇の「まぎあぐらす」	栃木県鹿沼市	大音 由里
館林市立図書館読み聞かせボランティア「じの会」	群馬県館林市	斉藤 仁恵
読書会杜りん	埼玉県ふじみ野市	森田 久美子
おはなしカレンダー	千葉県白井市	中野 美里
読み語りジャックの会	新潟県上越市	高野 省子
玉鈴読書会	富山県射水市	石田 恭子
あかつき読書会	石川県七尾市	國分 昇
南部町立図書館ひよこの会	山梨県南巨摩郡南部町	飯野 真由美
おはなしたまご	長野県東御市	宮嶋 千春
トルル	岐阜県瑞浪市	渡辺 聖子
おとぎのへや	静岡県富士宮市	遠藤 智子
甲良町読書グループ	滋賀県犬上郡甲良町	辻 トミ江

優良読書グループ名	所在地	代表者(世話人名)
寺田小学校お話クラブ	京都府城陽市	藤原 ふみ江
てぶくろ	和歌山県海草郡紀美野町	東中 洋子
おはなしかぎくくるま	鳥取県鳥取市	池内 厚子
ブックランド古志	島根県出雲市	藤原 廣子
絵本読み聞かせの会ぐりとぐら	岡山県赤磐市	堀口 寛子
おひさま文庫	広島県竹原市	土肥 甲子
おはなしの会「さざなみ」	徳島県海部郡牟岐町	湯浅 眞智子
たんぽぽ	香川県東かがわ市	池田 美貴子
こだま会	愛媛県今治市	長井 小百合
布つ子	福岡県嘉穂郡桂川町	西岡 貴代子
てんじん文庫	佐賀県武雄市	岸本 奈保子
深江おはなしネットワーク	長崎県南島原市	欽 典子
ふれあい読み聞かせボランティア「読開開輪組なま	熊本県天草市	川崎 潮美
さんびきのこぶた	大分県豊後大野市	衛藤 清美
コッコさん	宮崎県東諸県郡綾町	山本 和代
南種子町おはなし子ども会	鹿児島県鹿毛郡南種子町	小山 圭子
読みかかせサークル「ふくぎのくる」	沖縄県島尻郡久米島町	新垣 希

(以上36グループ)

日本図書普及社

贈りものに。お礼、お返しに。

東山魁夷シリーズ
1,000円・3,000円・5,000円 10,000円

図書NEXT

■「第51回 出版功労者顕彰会」

小峰紀雄 前読進協会長を含む 11名の出版功労者を新たに顕彰

10月4日(金)正午より、箱根芦ノ湖畔の出版平和堂に出版関係者約100人が集い、長く出版界の発展に貢献してこられた物故者を顕彰する「出版平和堂 第51回 出版功労者顕彰会」が行われた。

当日は台風の影響も心配されたが、開会のころには雨も上がり会場にはさわやかな秋の気配が満ちた。

冒頭の野間省伸 日本出版クラブ会長の挨拶では「出版を通して平和な社会を守り続ける」ことの大切さと出版平和堂の意義があらためて述べられた。全員で黙祷を



出版平和堂の建物は本を開いて伏せた形で建立されている

捧げたあと、鹿谷史明 日本雑誌協会理事長が今回新たに顕彰される11名のお名前を読み上げ、奉告を行った。

その中には小峰書店前社長で2011年から2015年まで当読書推進運動協議会会長と子ども読書推進会議代表を務め、永年の読書推進運動に力を尽くされた小峰紀雄氏(1938~2018)の名前もあった。小峰氏はこのほかにも日本書籍出版協会理事長、日本児童図書出版協会会長などの要職を歴任されている。

続いて平林彰 日本出版取次協会常務理事による献詞奉読のあと、参加者全員で献花が行われた。相賀昌宏 日本書籍出版協会理事長が感謝のことは述べて、式典は滞りなく終了した。

閉会後は昨年整備された構内で新顕彰者ご家族と役員で記念撮影。
その後、箱根ホテルに移動して、矢幡秀治 日本書店商業組合連合会会長による献杯で、懇親会が行われた。

■童美連 創立55周年記念 展示

子どもたちの明るい未来を願い 「子どもの本の絵」が大集合!

日本児童出版美術家連盟(童美連)は10月25日(金)~11月6日(水)の期間、「童美連 創立55周年記念 こどもの本の画家たち展」を、東京都千代田区のブックハウスカフェ内ギャラリーで開催した。

童美連は、おもに絵本・児童書・教科書・教材など子どもの本に絵を描くことを職業とする画家の団体。会場に展示された17名の画家の作品には、子どもたちや読者にとってなじみ深い作品も多く、来場者を楽しませました。会場係の画家から直接話を聞いて喜ぶ来場者や、ソファや絵本が用意された一



会場には原画だけでなく立体作品も展示された

角でゆったりと時間を過ごす親子づれもいた。

会場入口には、童美連55年の歴史をたどる年表を展示し、設立以来、画家の著作権を守るために歩んだ道のりを紹介して、著作権保護への理解をあらためて呼びかけた。

童美連は関連イベントとして、10月27日(日)に浜田桂子さんの講演会「童美連55年の歩み〜こどもの本の画家たちの仕事と誇り〜」、11月3日(日)に「絵本読み聞かせリレー」絵本作家・画家が自作絵本の読み聞かせをします〜、11月4日(祝)に和歌山静子さんの講演会「絵本作家としての歩み」を開催(会場はともにブックハウスカフェ)。

浜田さんは、1964年の童美連発足の経緯、その後の活動が著作権・印税など画家の権利獲得につながるまでを、童美連の初代理事長を務めた太田大八さんのエピソードや思い出を含めながら紹介した。

絵本読み聞かせリレーには、か



「絵本読み聞かせリレー」で『ぞろりぞろりとやさしいがね』を読むひろかわさえこさん

さいまりさん、ひろかわさえこさんほか10名を超える作家・画家が次々と登場。絵本創作時の裏話や、とくに注目してほしいところなどを紹介したり、手遊びを取り入れる作家もいて、参加者を楽しませた。終了後にはサイン会も行われた。

和歌山さんは、さまざまな創作エピソードを紹介。自作絵本の読み聞かせや紙芝居の実演も交えた盛りだくさんの講演に、満員の会場は参加者の笑いと熱気でつつまられた。

童美連では、「今年で創立55周年。画家の著作権を守る活動を続けてきました。これからも子どもたちの明るい未来のために、よい作品を描き続けていきたい」と、決意を新たにしている。

■JBBY「世界の子どもの本講座」

「お母さんは元カッパ」? 富安陽子さんの創作の秘密



夢やホラ話から生まれた物語の
紡ぎ方を紹介する富安陽子さん

10月27日(日)、東京都千代田区の出版クラブで、日本国際児童図書評議会(JBBY)から2020年の国際アンデルセン賞作家賞候補者として推薦されている児童文学作家 富安陽子さんの講演会が開かれた。

約100人の参加者を前に、富安さんは「物語が生まれる時」と題して30年にわたる創作活動を楽しく語ってくれた。

最初に絵本の創作の実例として『まゆとかっぱ』を読み聞かせ、絵本の基本的な構成が前1場面+15場面(見開き)+後1場面

の計17場面となっていることを前提に、画家との細かな打ち合わせの実際を説明。また絵本で使うことばについて、「読み聞かせで」耳で聞いて理解することばなので、同音異義語は使わない」「リズムを大事にする」など、創作に役立つコツも伝授してくれた。

続いて絵本『オニのサラリーマン』の読み聞かせがあった。この作品は初夢で赤鬼を見て、翌日の1月3日に一気に書きあげたもの。同様に夢が創作のきっかけとなった作品として、来春刊行予定の『桜の谷』を披露、朗読した。

最後に、個性あふれる登場人物や奇想天外なファンタジーの世界を生み出すバックボーンとして、実家の富安家の人々、とくに祖母の怪談と父や伯母のホラ話の影響が大きく、自身も子どもに「お母さんは元カッパだった」などと教えていたと明かした。

そして「物語が子どもの世界に負けないようにしなければいけない」と述べて講演を締めくくった。

■第13回「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」

年々活動の質もレベルアップ はじめて特別支援学校を表彰



今年度受賞者のみなさん

10月28日(日)、東京都千代田区の出版クラブで「高橋松之助記念朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」贈呈式(主催：高橋松之助記念顕彰財団)が行われた。受賞者は以下のとおり。

・南越前町立南条小学校 (福井県南条郡南越前町)
達成するとシールがもらえたり表彰される「読書目録冊数」や、「すいせん図書」「週末読書」「親子読書」、上級生が下級生に読み聞かせをする「なかよし読書」、保護者による図書館ボランティアなど

10月28日(日)、東京都千代田区の出版クラブで「高橋松之助記念朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」贈呈式(主催：高橋松之助記念顕彰財団)が行われた。受賞者は以下のとおり。

・地域・町とも協力して多様な読書推進活動を行っている。
・学校法人明照学園 樹徳高等学校
・樹徳中学校(群馬県桐生市)
2001年からの「朝の読書」を継続するため教職員一体となって取り組んできた。2018年完成の図書館には「朝読」おすすめ本コーナーを設置。このほか、生徒がつねに本を携帯する「Books E Bag」、ビプリオバトルなどの読書推進活動が行われている。
・出水市立出水商業高等学校 (鹿児島県出水市)

1998年から「朝の読書」を開始。図書委員による活動が非常に活発で、委員みずから図書室のレイアウト変更・飾りつけも行っているほか、「図書委員会たより」を発行。学外でも読み聞かせを行い、市の読書イベントなどにも参加している。
・岐阜県立東濃特別支援学校 (岐阜県東土岐市)
小学部から高等部までの61学級、知的障がい・肢体不自由・病弱などの210人の児童生徒が学ぶ



東濃特別支援学校の受賞は特別支援学校初となる

同校では、当時の校長の発案で2014年から「朝の読書」を全校一斉で行っている。児童生徒の状況にあわせ根気強く続けた結果、すっかり定着。国語の学習能力が向上し、学内の交流も促進されている。

【第13回 高橋松之助記念 文字・活字文化推進大賞】
・やまなし読書活動促進事業実行委員会(山梨県)
2012年山梨県立図書館が新たに開館したのを機に、自治体や公共図書館、書店などが結集し活動を開始。贈りたい本の推薦文を投稿する「贈りたい本大賞」、図書館・書店を回るスタンプラリー「やま読フリー」、家読推進の「うち読POP展」などの多彩な企画を提案・実施している。

■親地連が2年に一度の全国交流集会開催

子どもと本をつなげて50年 これからも根気強く！

今年、設立50周年を迎えた、親子読書地域文庫全国連絡会（親地連）は、10月5日(土)・6日(日)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、「第22回全国交流集会」すべての子どもに読書の喜びを」を開催した。今回のテーマは「つながるうづなげよう」と。

5日の基調講演「子どもと本——50年を歩んできて」は、親地連前代表の広瀬恒子さん。「子どもと本」のときだからこそ、本からくみ取れることがある。だから、子どもと本を結びたいと思った」と、親地連



「50周年を祝うささやかな夕食会」での広瀬さん

設立時の思いを述べ、この50年の子どもと子どもの本の変化をふり返った。「現在、子どもたちは情報をかんとんに得られるが、そのぶん考える力が弱くなっているのではない。想像力は子ども時代読書で磨かれる。子どもと本を根気強く結びたい。そして、子どもたちにこの世は生きるに値することを伝えたい」と語った。

続いて、詩人・作家のドリアン助川さんの記念講演&歌劇「クロコダイルの恋 生き物たちの声が聞こえる」私たちはどうして生まれてきたの？。講演では作家として立つまでの苦闘と、特別な存在でありたいという思いを捨て、共生の気持ちで自然と接するようになって書けた小説「あん」が国内外の多くの人に受け入れられたことなどを紹介。絵本『クロコダイルとイルカ』のもととなった歌劇『クロコダイルの恋』を「大人向けで」と、ギター演奏をバックに演じた。

その後、2日間にわたりテーマ別に交流会・分科会が開かれた。



親地連50周年記念誌
『子どもと本の50年』

6日の閉会式講演は、天理市立図書館の高橋樹一郎さんの「子どもと本をつなぐ人々の流れの中で」。明治時代からはじまる子ども文庫100年の歴史から、図書館づくり運動、さまざまな場所で活躍する読書ボランティアへとつながった「子どもと本をつなぐ人々の大きな役割」を紹介した。最後にアピールを採択して、閉会となった。

50周年記念にふさわしく、会場では機関誌『子どもと読書』のバックナンバーと佐藤真紀子さんの表紙原画、国立国会図書館国際子ども図書館の図書セット（絵本で知る世界の国々 IFLAからのおくりもの）を展示。また、この日にあわせて親地連は50周年記念誌『子どもと本の50年』を刊行した。親地連と子ども本の50年を振り返り、全国の会員の実践を知る資料である記念誌は、親地連ホームページから購入できる。

●親地連ホームページ
<https://www.oyaiten.info/>

アピール

「親子読書地域文庫全国連絡会」は1970年の発足以来、今回で第22回を数える全国交流集会の開催、10月で通算437号となる『子どもと読書』の発行、そのほか様々な活動を続け今日に至ります。この間一貫して追求してきたのは、すべての子どもたちに読書の喜びを実現することであり、そのためにはなにより平和で自由な社会を守ることにこそが要であるという強い思いの共有でした。また、地域での活動から小中学校の図書館に目を向け、学校図書館問題にもいち早く取り組み、少なからぬ成果を見ることもできました。

しかしこの50年の間に社会は大きく変化し、子どもたちを取り巻く状況も比較にならないほどの多様で複雑な問題を孕むようになっていきます。格差やいじめ、虐待や、目に見えない様々な障害など子どもたちを苦しめる現実を知るにつけ、おやちれんが果たしてきた役割とこれから担わなければならない責務について、真剣に考えざるを得ません。

私たちは、命や個人の尊厳が大切にされる社会、一人ひとりの子どもたちが生きる喜びを実感できる社会、性別や国籍を越えて広くつながりあい、ともに地球の未来を守りあえる社会を目指します。それを実現するには「読書」の力が大きく寄与することでしょう。読書で身につく力とは、子どもが「自ら考え、判断し、行動する力」であるとともに、「共感する力、手をつなぐ力」でもあります。そして私たち大人は、それを「見守り、支える力」でありたいと願います。

これからも「すべての子どもに読書の喜びを」を合言葉に、人とのつながりを大切に、地道に粘り強い活動を共に続けていきたいと思います。

すべての子どもに読書の喜びを！

2019年10月6日

親地連50周年記念第22回全国交流集会 参加者一同

第29回
神保町ブックフェスティバル
10/26・27



「こどもの本ひろば」では熱心に本を探す親子の姿があちこちに!



掘り出しものがいっぱい! お楽しみワゴンセール「本の得々市」



ワゴンが並ぶすすらん通りの入口では小学生の和太鼓演奏も



書籍デザインの可能性と多彩さを知る「造本装幀コンクール」展示会

読書推進運動協議会事務局が神保町に引っ越して1年。「読書週間」時代の風物詩「本の街・神保町」の本のお祭りをご紹介します



すすらん通りでは「カントリーロード」&「ビクトリーロード」の演奏も



子どもたちに大人気の「紙すき体験」



同時開催の「神田古本まつり」で見つけた「幸せ狸」



映画「つつんで、ひらいて」トークイベントでの広瀬奈々子さん(中央)



神保町のレストランも登場、お腹もしっかり満たされます



講談社おはなし隊のキャラバンカーは親子の読書スペースに



「本の得々市」は終日、大にぎわいでした

■日販おはなしマラソン

今年も「読書週間」にあわせ
キャンペーン実施!

書籍取次の日本出版販売株式会社(日販)では、今年も「読書週間」あわせて全国の63書店で「おはなしマラソン」読み聞かせキャンペーンを開催した。

日販では1999年より、年間を通じて、書店に店頭での読み聞かせ会をサポートしている。サポート内容は、開催ツールの提供、新規開催にあたっての開催ノウハウの提供や読み手となるボラ

ンティアの派遣などで、これまで全国835書店が読み聞かせ会を実施している。

秋の読書週間、春のこどもの読書週間時には、読み聞かせ会参加の親子にプレゼントする年齢別絵本ガイドブック『いくつのえほん』や折り紙などを用意し、キャンペーンとして展開。今回で37回目となる。開催書店のなかには、遊び歌や身体を動かす絵本を取り入



年齢別絵本ガイドブック『いくつのえほん』

れる、近隣の文学館の企画展にあわせ選書したなど、いつも以上に工夫をこらした読み聞かせ会を企画、実施したところもあり、参加した親子からも好評を得ている。

●日販おはなしマラソン
ホームページ
<https://www.nippan.co.jp/ohanashi-marathon/>

■「2018年度全国読書グループ調査」

調査回答館数、回答グループ数を
修正しました

全国公共図書館協議会の全面的な協力のもと、全国の図書館・類縁機関より「回答いただきました」2018年度全国読書グループ調査」の集計作業は、最終段階を迎えました。本年中には、全集計結果を公表できるように、鋭意作業中です。

先日、追加のご回答をいただき、また、一次集計の見直しにより、回答読書グループ総数に変更が

りますので、ご紹介します。

●ご回答いただいた図書館類縁機関数：2008

●回答グループ数 総数：1万2364 子どもの本を対象とした活動のグループ数：3678

●活動者数：のべ16万1709人

●活動内容別内訳

- 子どもの本 読書会 913、研究会 834、実演 G 8029、文庫 1141、読書支援 737、環境整備 821、友の会 131、連絡会 686
- 一般の本 読書会 1439、研究会 588、実演 G 1309、文庫 442、読書支援 548、環境整備 226、友の会 127、連絡会 221
- 子どもの本・一般の本両方 読書会 243、研究会 242、実演 G 1106、文庫 409、読書支援 312、環境整備 183、友の会 76、連絡会 149

事務局報告(10月)

☆1日 野間読書推進賞贈呈式 について文部科学省総合教育政策局に祝辞依頼
☆1日 第73回読書週間 事業について日本図書及株式会社と打ちあわせ
1日 JBBY「世界の子どもの本展」開幕セレモニー出席
3日 機関紙「読書推進運動」623号別冊 2019年こどもの読書週間行事報告 入稿
4日 第51回出版平和堂・出版功労者顕彰会 出席
4日 伊藤忠記念財団 子ども文庫助成 書開提出終了
5日 6日 親子読書地域文庫全国連絡会 第22回 全国交流大会 出席
7日 機関紙「読書推進運動」623号入稿
8日 機関紙「読書推進運動」623号終了

●編集部 & 事務局の
ひとこと

●先日の台風および豪雨の被害を受けられたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。今年野間読書推進賞贈呈式のご案内の発送は10月10日、台風19号の直前でしたので、返信に被災状況を綴られた、これまでの受賞者もいらしました。

●今年の「読書週間」がはじまって数日後、ポスターを例年お送りしている千葉県銚子町の中山書店さんより、「まだ届かないのですが」とのお問い合わせをいただきました。例年ご希望者のポスター発送は9月上旬でしたので、台風15号の影響で届かなかったのかも知れません。台風後に発送リストを確認して、再送すべきだったと不明を恥じつつ、すぐにポスターをお送りしました。銚子町のホームページには、11月に入ってから連日のように台風被災者に向けた情報が更新されています。ご苦労が続くなかでも、「読書週間」とともに盛りあげてくださることに、心から感謝です。

●そのほか、被災された地域にある多数の図書館・書店でも、さまざまなイベントやフェアが行われたことですが、日々生活が揺らいでいるなかで企画を進め実施する努力はいかばかりか。現場のみなさんが提供する、本を介して過ごす時間の豊かさが、明日へのエネルギーとなりますように、「読書」の力で平和な文化国家を、誕生から70年以上たっても、そしてこれからも「読書週間」のテーマは変わりません。(伸)